

総合教育会議の開催について

第1 第17回墨田区総合教育会議の開催について

1 開催日時及び場所

- (1) 日時 令和5年1月25日(水) 午前10時30分から正午まで
- (2) 場所 区議会第1委員会室(区役所17階)

2 出席者等

区 分	出席者等
(1) 構成員 / 6名	区長、教育長、教育委員4名
(2) 区長部局 / 5名	副区長、企画経営室長、行政経営担当課長、政策担当課長、総務部長
(3) 教育委員会事務局 / 6名	教育委員会事務局参事(庶務課長事務取扱)、学務課長、指導室長、すみだ教育研究所長、地域教育支援課長、ひきふね図書館長
(4) 傍聴人 / 9名	一般5名、区議会議員4名

3 協議事項

(1) 墨田区教育施策大綱に係る教育課題について

墨田区教育施策大綱に係る教育課題の一つであるこれからの子どもに必要な力について、学習指導要領や墨田区教育施策大綱を踏まえ、意見交換を行った。

4 会議での主な発言

(1) これからの子どもに必要な力について

区長	<ul style="list-style-type: none">子どもたちには夢や希望を持って、目標に向かって勉強もスポーツも頑張ってもらいたい。将来の予測困難な時代を生きていくには、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育てていく必要があるため、そのための支援を徹底的にしていきたい。地域の大人がいろいろな体験や経験を話すことで、そのことがきっかけとなり、子どもが生き生きと前向きに取り組めて、最終的に「生きる力」につながっていく。そのためには、環境づくりや興味を持たせる工夫をしていくことが大事である。大きな目標を持つことも大事だが、小さな目標を達成する成功体験が重なっていくと、自信になって、更に成長することができる。子どもにとって、成功体験を繰り返していくことは、とても重要である。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none">グローバル化、高度情報化が飛躍的に進み、予測や準備が難しく変化が速い時代を生き抜いていくためには、自分の力で考えて、判断して、仲間と協力して、臨機応変に対応していく力が必要になってくる。

教育委員会

- ・探究する力が重要である。探究する力の土台となる知識の習得、知識を活用していく力を身につけた上で、更に挑戦する意欲、自ら学んでいく力、読解力も必要になってくる。
- ・探究する力の先には、じっくり考えて、根拠を示して相手に伝える力が必要である。そのためにはコミュニケーション能力や互いの意見を受け入れて、認め合い協働していく力（コラボレーション能力）も大切である。
- ・覚えたことは忘れてしまうが、分かったことは忘れない。つまり、暗記ではなく、自分で試行錯誤しながら「わかる」を繰り返していく探究こそが本当の学びである。その過程で子どもたちは、自分の得意なことを見つけたり、主体性を伸ばしたり、最後までやり遂げる経験をする。
- ・表現する力、伝える力も大事だが、コミュニケーション能力という意味では、聞く力も同じくらい重要である。
- ・学校は学力や知識だけでなく、様々な体験の場でもある。失敗から学ぶことも多い。それらの学校での体験は、友だちとの関わり方や生きる術を学ぶ第一歩になる。本当に困っているときは、助けてと言える大人になってほしいし、周りの大人や行政が助けてくれることを伝えたい。
- ・過去の常識が現在では通用しない時代になっており、これからは、自分で考えて自分の価値観を実現していく子どもになってほしい。
- ・家庭での教育も大事だが、学校の教員には、子どもたちに多様な価値観があることを教えてほしい。いろいろな価値観があることを基礎としてしっかり身につけると、次は相手の意見を認めつつ、自分の意見を言えることにつながっていく。
- ・家庭環境に恵まれていない子や声の小さい子たちも、教育の力で、自分で考え、行動する力を伸ばしてほしい。
- ・予測困難な時代だが、学校教育にも不易流行がある。人格形成や、知・徳・体のバランスが取れた子の育成は不易だと思う。流行も重要であり、学校で時代にあったものが必要と思う。
- ・経験豊富な地域の皆さんに学校の中に入って活動してもらうことで、子どもの経験の少なさを補うことができる。今後は地域との関わりが大事になってくる。
- ・墨田区の学校現場では、ICTの活用や授業の手法を工夫することで、主体的で対話的な深い学びを実践して、探究する力を伸ばしている。
- ・普段おとなしい子でも、タブレットを使えば積極的に自分の意見を言える。ICTのプラスの面を教育現場でもっと活用してほしい。
- ・教員には、子どもに興味を持たせ続ける仕掛けづくりや工夫が必要になる。そのことがICTの活用を含めて教員のスキルアップにもつながる。
- ・失敗や挫折は、マイナスではなく次のステップへつながる。落ち込んでも、自己肯定感があれば結果を受け入れて立ち上がることができる。